



女性の就業

女性の活躍推進をめぐる動き

2013 年の第二次安倍内閣の誕生とともに掲げられた、成長戦略のひとつ「女性の活躍推進」。2015 年 8 月には「女性活躍推進法」も制定され、労働者 301 人以上の大企業に計画策定が義務づけられました。政府が掲げる「2020 年までに指導的地位に占める女性の割合を少なくとも 30%程度」の目標に向けて、各事業所の取組が、今後一層期待されるどころです。

女性の活躍推進は、経営にも効果があると言われていいます。勤続年数の男女格差が小さい企業や、再雇用制度がある企業、女性管理職比率が高い企業の方が利益率が高い傾向にあると言われていいます。^{*1} ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)に取り組むことで生産性が上昇する傾向も見られます。^{*2}

女性の活躍を困難にするもの

しかし現状はどうでしょうか。平成 27 年度の企業規模 30 人以上における課長相当職以上の女性管理職比率は 7.8%^{*3} となっています。また、キャリアを形成するにあたっての就労継続も、女性の年齢別労働力率を表す「M 字カーブ」にも象徴されるように、決して容易ではありません。

結婚・出産・育児で約 6 割の女性が離職する傾向^{*4}にあると言われ、育児休業復帰後、職域が限定されキャリアコースから外れてしまうこと(マミートラック)、長時間労働や転勤・休日出勤等を管理職の就任要件とされること等がその要因となっています。家庭や職場等における性別役割分担意識や実際の分担の偏りも影響しています。

女性が働き続けるために

女性が働き続けられる環境、そして管理職登用をはじめとするリーダーシップを発揮するためには、女性のライフステージを考慮した柔軟な職場環境の整備だけでなく、職場における固定的な性別役割分担の見直しが求められます。

また、家庭においても、家事や育児における役割分担や、在宅ワークや時短勤務等、出産後の生き方、働き方について、そのチャレンジを尊重し支え合えるよう、じっくりと話し合う機会を設けてみてはいかがでしょうか。

- *1…2003 年 6 月経済産業省 男女共同参画研究会報告 「女性の活躍と企業業績」
- *2…成長戦略としての女性活躍の推進 (2014 年 11 月経済産業省経済産業政策局経済社会政策室)
- *3…厚生労働省 平成 27 年度 雇用均等基本調査
- *4…男女共同参画白書 平成 28 年版

【役立つ 3 冊をご紹介します】

※市内図書館&すくらむ 21 で読めます&借りられます。



企業における女性活躍推進の施策を具体的に紹介してくれる本
『輝く会社のための 女性活躍推進ハンドブック』

著：清水 レナ
出版：ディスカヴァー、2015 年

企業に就職しても女性はなぜ辞めてしまうのか。その背景を女性が置かれた現状データをもとに具体的に紹介しています。未婚・既婚に限らず、女性が仕事を辞める理由がよくわかる一冊です。また、採用・定着・登用の段階ごとに、実例をもとにした解決策も紹介。実用的な点も魅力です。



一度は感じたことのある育休ジレンマに、思わず共感してしまう一冊
『「育休世代」のジレンマ 女性活用はなぜ失敗するのか?』

著：中野 円佳
出版：光文社新書、2014 年

制度改正などで女性の就労継続の可能性が広がった 1978 年以降の世代＝「育休世代」。バリバリ働くことに加えて母にもなるという理想とプレッシャーを経験した、15 人を対象としたインタビュー集です。ヒント満載。自分は何の事例に当てはまるのか照らし合わせながら読むのもオススメです。



「ジェンダーって何？」から学べる、性役割を軸とした
すべてのライフステージで読みたい一冊
『日本のジェンダーを考える』

著：川口 章
出版：有斐閣、2013 年

就職、キャリア形成、昇進格差、家庭との両立、出産・育児、非正規雇用——働くことで直面する様々な問題に、どう向き合えばいいのか。それを「ジェンダー(社会的・文化的性差)」をキーワードに紐解く一冊。性別で役割を分ける社会の構造や歴史を知ること、問題の本質や答えを見出すヒントになるはず。

すくらむ 21
館長推薦!

絵本の紹介 生きることと学ぶこと



— 働くお母さん — 『ママがおうちにかえってくる!』 と『ぼくのママはうんてんし』

朝、一緒にマンションから出てきた両親と子ども、ちょっと歩いたら「じゃあね」と母は手を振り駅の方へ歩いていきました。大きな荷物を持った父と父に抱っこされていた子は「行ってらっしゃい」と言って保育園に向かいました。改札口近くでは、2~3オの子と父が手を繋いで何やら話しながら保育園の方へ向かっていきました。街を歩いても、お父さんがベビーカーを押したり、抱っこ紐で子どもと歩いたりする姿を見ることが当たり前になってきました。時代の変化を目で感じます。女性が学校卒業後就業し、結婚や妊娠・子育てを契機に離職した後、子どもが手を離れ再び就業する日本独特のM字曲線は、少しずつですが緩やかになってきています。また、保育園の待機児童解消が行政施策の大きな課題となる時代になりました。

今回紹介する2冊の絵本は、働いているお母さんを主にしたアメリカと日本の作品です。それぞれの絵本の色合いの違い、設定の違いなど、比較して読む楽しさがあります。お母さんが帰ってく

ることを心待ちにするリフレインが特徴的なアメリカの「ママがおうちにかえってくる!」と、運転士のお母さんと看護師のお父さんという性別役割分担を超えた家族のお話「ぼくのママはうんてんし」。共通していることは働くお母さんを誇りに思い、ともに生活している家族が生き生きと描かれていることです。2冊ともすくらむ21の1階第1交流室にあります。



著: ケイト・バンクス
出版: 講談社 2004年



著: おおもやすお
出版: 福音館書店 2012年



すくらむ 21 7~9月の新入荷書籍 ※すくらむ 21で読めます&借りられます。

日本のジェンダーを考える 著者: 川口章 出版社: 有斐閣	難民高校生 - 絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル 著者: 仁藤夢乃 出版社: 英治出版
仕事と家族 - 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか 著者: 筒井淳也 出版社: 中央公論新社	女子高校生の裏社会 - 「関係性の貧困」に生きる少女たち 著者: 仁藤夢乃 出版社: 光文社
メンタリング・マネジメント - 共感と信頼の人材育成術 著者: 福島正伸 出版社: ダイアモンド社	マンガでわかる男性学 - ジェンダーレス時代を生きるために 著者: 水島 新太郎 出版社: 行路社
メンタリング入門 (日経文庫) 著者: 渡辺三枝子・平田史昭 出版社: 日本経済新聞社	タイム・バインド(時間の板挟み状態)働く母親のワーク・ライフ・バランス 著者: アーリー・ラッセル・ホックシールド 出版社: 明石書店
会社を元気にするメンタリング・ハンドブック導入から実践 (増補版) 著者: メンター研究会 (編) 出版社: 日本生産性本部生産性労働情報センター	「女性にやさしい」その先へ 資生堂ショックから新しい働き方を考える 著者: AERA編集部 出版社: 朝日新聞出版
LGBT サポートブック 学校・病院で必ず役立つ 編著: はたちさこ・藤井ひろみ・桂木祥子 出版社: 保育社	資生堂インパクト - 子育てを聖域にしない経営 著者: 石塚由紀夫 出版社: 日本経済新聞出版社
アクティブラーニングで学ぶジェンダー 編著: 青野篤子 出版社: ミネルヴァ書房	起業したらまさきに読む経理の本 改訂第3版 編著: 笠原清明 出版社: クロスメディア・パブリッシング
広告、社会を揺さぶった ボーヴォワールの娘たち 編著: 脇田直枝 出版社: 宣伝会議	「居場所」のない男、「時間」がない女 編著: 水無田気流 出版社: 日本経済新聞出版社
「起業」「法人化」を考えた時に読む本 編著: 梅本正樹 出版社: 彩図社	「ない仕事」の作り方 編著: みうらじゅん 出版社: 文藝春秋

